

1 カオリン

2 純度試験(4)及び(5)の項を次のように改める.

3 純度試験

- 4 (4) 鉄 (1.10) 本品40 mgに希塩酸10 mLを加え、水浴中
 5 で10分間振り混ぜながら加熱する。冷後、L-酒石酸0.5 gを
 6 加え、振り混ぜてL-酒石酸を溶かした後、以下第2法によ
 7 り検液を調製し、B法により試験を行う。比較液には鉄標準
 8 液2.0 mLを加える(500 ppm以下)。
- 9 (5) 鉛 本品0.80 gをビーカーにとり、薄めた塩酸(1→4)
 10 20 mLを加え、時計皿で覆い、時々振り混ぜながら穏やかに
 11 15分間煮沸する。冷後、遠心分離して得た上澄液をろ過し、
 12 残留物を熱湯5 mLで洗い、洗液をろ液に合わせる。冷後、
 13 クエン酸水素二アンモニウム溶液(1→2) 10 mL及びチモール
 14 ブルー試液1 mLを加え、液の黄色が淡黄緑色に変わるまで
 15 アンモニア水(28)を加える。この液を分液漏斗に移し、更に
 16 水で洗い込み、洗液を合わせる。ピロリジンジチオカルバミ
 17 ン酸アンモニウム溶液(3→100) 5 mLを加えて5分間放置し、
 18 酢酸ブチル10 mLを正確に加えて5分間振り混ぜた後、必要
 19 ならば遠心分離し、上層を試料溶液とする。別に原子吸光度
 20 用鉛標準液8 mLを正確に量り、クエン酸水素二アンモニ
 21 ウム溶液(1→2) 10 mL及びチモールブルー試液1 mLを加え、
 22 以下試料溶液と同様に操作して標準溶液とする。試料溶液及
 23 び標準溶液につき、次の条件で原子吸光度法 (2.23) によ
 24 り試験を行うとき、試料溶液の吸光度は標準溶液の吸光度よ
 25 り大きくない(10 ppm 以下)。

26 使用ガス：

27 可燃性ガス アセチレン

28 支燃性ガス 空気

29 ランプ：鉛中空陰極ランプ

30 波長：283.3 nm

31 -----

32 9.22 標準液の項に次を追加する.

- 33 鉛標準液、原子吸光度用 鉛標準原液1 mLを正確に量り、
 34 水を加えて正確に100 mLとする。用時製する。この液1 mL
 35 は鉛(Pb) 1 µgを含む。

36